

学校法人滋慶学園 東京ウェディング・ホテル専門学校
2026 年度学校関係者評価委員会 結果報告書

日時 2026 年 5 月19日(火)10:00～12:00 第1校舎 201 教室

●学校関係者評価委員

【委員氏名】

古賀 優希	卒業生代表	株式会社エスクリ ラグナヴェール アトリエ
七五三野 浩子	保護者代表	総合ウェディング科2年 在校生保護者
森 章	高校関係者	拓殖大学紅陵高等学校 元校長
沼倉 英里	近隣関係者	行船管理有限会社 代表取締役 社長
石渡 雅浩	業界代表	株式会社ウェディングジョブ The Professional Wedding 編集長
工藤 綾乃	業界代表	株式会社八芳園 プロデュース事業部 総支配人室

【学校側参加者】

尾崎 哲則	東京ウェディング・ホテル専門学校 学校長
山浦 雄矢	東京ウェディング・ホテル専門学校 事務局長
館脇 康郎	東京ウェディング・ホテル専門学校 教務部長
岡 覚子	東京ウェディング・ホテル専門学校 キャリアセンター長・ウェディングホテル学部学部長
松田 由紀	東京ウェディング・ホテル専門学校 ウェディングプランナー科学科長
霜井 理名	東京ウェディング・ホテル専門学校 ウェディング科/総合ウェディング科リーダー
小苗代 正人	東京ウェディング・ホテル専門学校 学生サービスセンター
稲吉 祐子	東京ウェディング・ホテル専門学校 広報センター センター長

(学校関係者評価委員の評価および意見)

点検・評価項目	評価委員からの評価 優れている…5 適切…4 努力課題あり…3 改善が必要…2 全く出来ていない…1	評価委員よりの御意見
基準 1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント		
1-1 教育理念、目的及び目標の設定等	3.0	●3年生教育により、就職活動だけにフォーカスするのではなく、教育理念に基づき、卒業後に業界で活躍するための真の人材育成を行っている。 ●建学の教育理念は滋慶学園のどの学校も教育の具現化に向けた努力をしている。養成目的、教育目標を明記して、誰でもが理解できる体制になっており、学生・保護者・教員が何を目的に・何を学ぶのかが理解が徹底されている。職業教育であるために即戦力の人材育成は企業からの要望でもあることから提案型人材(聴く力・理解する力・プレゼンする力)の育成は興味ある実践だと思う。 ●社会に合わせ年度の目標・目的がしっかり設定されていると感じました
1-2 職業教育のマネジメント体制の整備		

1-2(続き)		学校が就学年次や学科を変更するのは簡単なことではないはずですが、定期的に積極的に行っている学校だと感じます。学生が頼ることができるスタッフが多く存在する組織作りは◎。 ●養成目的、教育目標がしっかりと定められており、わかりやすく明文化されていると思う。
基準 2 教育課程、教育の実施、学修成果		
2-1 教育課程の編成と授業科目	3.0	●ウェディングプランナー科はウェディングプランナーを 3 年間かけて養成するという他校ではあまり見られない特徴がある。1年生の基礎、2年生の長期実習、3年生の集大成プログラムなど段階を踏んで体系的に学ぶ教育過程が確立しており、その点を業界の企業から評価されている。総合ウェディング科は希望のコースや専攻の選択を行って、それに合わせた科目を選択できるなど、学生の学びたい内容と将来像に合わせて柔軟な教科課程が設定されている。 ●産学連携と学生の業界に出向いた実践で、ウェディングプランナー養成は長期実習も体系的な教育課程になっていることは評価すべき。 ●業界で必要とされる資格やスキルは変化し続けるため、社会に出たあとを考えてカリキュラムや資格取得を組みかえる柔軟さは重要になると感じます。 ●教育課程の編成と授業科目に関してはきちんとした決定が行われていると思う。年度ごとに新しい取り組みがあり、業界の現状やニーズに応じて、柔軟に編成をおこなっているであろうことがうかがわれる。
2-2 教育課程の実施	3.0	●ウェディングプランナー科の「プランナー実習」「結婚式運営」、ウェディング科の「ドレスショー」など、各学科で学んできた内容の集大成の科目においては、企業としっかり連携を行うことで企業の求める人材の育成に寄与している。 ●紙ベースの授業や情報の発信レベルから、マイクロソフトのソフトを活用した先進性は大いに評価できる。授業はシラバスにそって的確に実行されて、講義・演習・実技や多くの成績の評価も学則に照らし合わせ、教務部長を中心に公平に評価されている。ドレスショーや結婚式運営・プランナー実習も行われて学生の実技に大いに役に立つと思う。 ●生成 AI でキレイにまとめられることが当たり前になっている社会なので、資料を活用した“プレゼンテーション”や“セールストーク”スキルが求められる。面接を通して御校の学生さんは、在学中に様々な企業を実際に見ている分、他校の学生さんより、自分の軸や企業とのマッチングを深く考えることができているように感じます。 ●Teams、生成 AI に学生の時から経験が出来ていると今後のプランナー人生でも活かせると思う。最近では AI でお二人のイメージを可視化するような打ち合わせもする。平日にもプランナーの仕事に携われことはすごく良いなと感じています。自分も結婚式プロデュース企画に参加しましたが、リアルな結婚式に一から関わめる機会は貴重だと感じ、学びも多かったなのでこの取り組みは継続されるべきではないかと思う。 ●授業科目内容に応じ、適切な授業形態で教育が実施され、適切な評価が行なわれていると思う。Microsoft Teams 等の共有、コミュニケーションツ

2-2(続き)		ールを活用した学生・教員双方への利便性・効率性の向上も素晴らしいと思う。
2-3 単位・卒業認定	3.0	●卒業認定のプロセスは明確になっている。 ●卒業認定・単位の認定は基準・内容共に学則や学生便覧に明記され、学生・保護者からの理解もされている。 ●単位・卒業認定は定められた基準方針により、しっかりと実施されていると思う。
2-4 学修成果目標の達成状況	2.3	●業界動向の把握を定期的に行っており、弊社も情報提供を適宜行っているが、引き続き業界動向とそれに合わせた就職サポートの実施が求められている。 ●資格のほとんどが授業や授業履修で獲得できるのは大きな魅力。就職希望者の就職率100%達成はキャリアセンターと担任の成果だと思うが、本人の第一希望の企業なのか、また就職後の1年～3年間の離職率はどうなのか、さらなる確認が必要。 ●卒業後1年の学生へのアンケートとありますが業界・企業として求められていることの修得だけでなく、学生が社会に出て“もっとこれを学びたかった”“この経験が必要だった”を学校側へ伝えることができると、より「社会に出て活躍できる人材」になると感じています。
基準 3 学生の受入れ、学生支援		
3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	2.3	●2027 年より総合ウェディング科を 2 年制に修業年限を変更するなど、時代に合わせて柔軟に体制を変更している。また、インバウンド需要の高まりや日本への留学生の増かを受けて、主に留学生を受け入れる 1 年制のホテルを学べる学科の新設により、さらなる学生の受け入れ増が見込める。 ●予定した定員がどうして確保できなかったのか、何が原因なのか、大いに分析・調査が必要だと感じる。高校の進路ガイダンスへ積極的な参加、在校生がいる出身高校での文化祭参加(ドレスショー・模擬挙式)東京近郊の恋愛スポットで地元観光協会とコラボで(模擬挙式及び本物の挙式の実演)などの企画や実行が不可欠です。 ●大学→専門学校や、専門学校→専門学校と進学アプローチも変わってきていると感じるため、“学費計画”は現実的に必要かつ学校選択がしやすいと思います。 ●総合ウェディング科が 3 年制から 2 年制に変更となるのは少し悲しいですが入学者が増えてくれることに期待します。 ●事前に諸費用、学費含めて開示している点について、保護者への寄り添いが感じられる。 ●学生募集及び入学者の選抜に関してはしっかりとした基準に基づき決定されていると思う。受入れも適正に行われていると思うが、昨今の結婚式への考え方もあり、定員数の充足という点においては努力が必要と感じられる。
3-2 多様な学生に対する修学支援	2.5	●1年制のホテル・ウェディングビジネス科が新設されたが、1年間という学びの期間に限りがあるものの、日本人学生との交流の機会を持たせることが今後期待される。

3-2(続き)		●学生に対するサポートは、健康面だと慶生会クリニックでの診察や検診を無料で受診でき、メンタル面の場合はトータルサポートセンターで十分な面談が施されている。障害のある学生の入学や就学の場合には、総合的な配慮をしても国公立の学校と違って、校舎の増改築費用や特別な資格や経験者の採用をする人件費の心配もあるために慎重な判断を望みます。 ●海外の留学生に関して、知識・スキルの部分よりも、日本の習慣ならではの【時間管理】【チームワーク】【気遣い】のような社会における組織への適応力は育てる必要があると感じています。実際に勤務をしてネックになりやすい部分です。 ●留学生の出席時間への意識や取り組み方に関して入学後に改善しなければならないのはちょっと心配です。せっかく入学して授業を受けることが出来ることを大切に思っています。 ●私の在学中、留学生は数名しかいなかったが現状を伺い多様性を感じた。一人一人に寄り添っていることを感じられた。 ●学生の経済的側面への支援は修学支援制度や奨学金などの紹介等で適切な支援が図られていると思う。留学生に関しては 2025 年度の在籍はいないので、今回の評価には当たらないが、2026 年度より入学生がいるとのことなので、今後を見ていきたい。
3-3 学生生活に関する支援	2.3	●退学率は改善傾向にあるものの目標達成には至っていない。メンタルケアなど今どきの若者に対するケアの体制を強化していくべく、滋慶グループ内にクリニックを持っていることなど、滋慶グループ傘下の学校であることを最大限生かしていくことが求められている。 ●担任制度や、求人情報をリアルタイムで閲覧できるマイクロソフトアプリ導入さらに慶生会クリニックでの健康診断や受診・治療は評価できる。しかし、現在の学生・保護者そして教職員の悩み事の80%は金銭面・健康状態よりも人間関係で悩む割合が高い。悩みが退学や怠けの原因となり・保護者の不信感となり・教員のモチベーションも向上しない状況となるので、常駐のカウンセラーを配置すべきだと提案致します。 ●学生生活におけるサポートの充実素晴らしいと感じるとともに、社会に出ると、自分のモチベーションを自分で保つことも求められるので、そのバランスが難しいと感じました。社会にでると、カウンセリング→休職診断→転職がとて増えています。 ●慶生会クリニックを利用できることはありがたいですが隣駅のため利用しづらいそうです。また、娘の周りの子でも利用者がいないのもっと活用できるようにすると良いです。 ●就職に関しての面談など、気軽に相談できる環境がありがたかったです。また、慶生会クリニックの存在は学生にとって安心できることです。 ●就職希望者は全員内定を取れており、退学率も減少しているので、しっかりと支援ができていくことがうかがえる。
3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援	2.0	●学校の規模的に単独で部活動やサークル活動を充実させることが難しいようだが、ホテルの朝食体験など、今後の学びにつながるような活動を推進していく必要があるのではないかと感じる。

3-4(続き)		●学生の相談は担任が担い・留年者や休学者はオンラインでの面談が主となっています。学生の楽しみの一つである部活動も自校の人員や施設を活用するのでなく、あくまで他力に頼る体制です。省力化の為にオンライン・マイクロソフトのソフトの活用と対面での活動や接し方が減っているように感じます。ウェディング関係は人前で人に見てもらい、人に見せるものだと思いますから、対人関係の充実を期待しています。 ●専門学校は、先生⇄学生の距離が近いからこそ担任の先生は、学生さんを理解し、企業と連携できることが強み。一方で他の教員が学生さんの課題や強みを理解していないということも多いため、システムを活用し、情報共有を行うことは必要だと感じます。 ●サークルがないことに残念がっていました。 ●他学校とのサークル活動は交流にもつながるため素敵な取り組みだと感じた。私が学校内で部活をやっていた経験があるので楽しかった思い出もあるため、そのようなことが出来たら息抜きにもなるのにと感じました。 ●学生の学力や学習状況の把握についてはシステム化されており、きちんとした支援がなされていると思う。サークル等の課外活動についてはグループ校と合わせて活動をしていくとのことなので、今後の展開を期待したい。
基準4 教員・教育実施組織		
4-1 教員の配置、募集、採用	2.7	●新任講師への研修などのサポート体制は充実している。 ●海外からの留学生に対応することは、言語や生活習慣の違い・さらに大きいのは宗教感の違いと、時間の管理・善悪の期別の違いです。新しい教育人材の確保も大切ですが、東京都や区の(国際交流センター)に協力を求めると、言語・宗教・生活習慣に堪能な人材を派遣してくれますから参考としてください。教員の育成そして新人の確保と研修はどこの学校でも大きな課題です。どのような能力が必要なのか考慮した人材確保に期待します。 ●業界的に変化が著しいからこそ実務経験も、昔の経歴だけでなく、直近の業界理解ができているかが重要だと考えます。
4-2 教員の組織編制等	2.8	●目標達成に向けた取り組み内容が会議や研修を通じて共有がされている。 ●学校法人滋慶学園として組織体制は整備されています。また法人としての組織目標や学校運営目標も確立されていて、指示の伝達・報告も問題なく進んでいると確信しています。不足を補う職員研修や確認する各打ち合わせ会と会議も実施されていますが、学校全体に活力が不足している感があります。改善をお願いします。
4-3 教員の資質の向上	3.0	●研修を適宜行うことで、教員の資質の向上に取り組んでいる。 ●教員の授業力アップ・内容の充実さらにはクラスマネジメント研修・カウンセリング研修を施して教員の質の向上に務めています。同時に授業見学や研究成果発表会などを通して、更なる高みを期待する学校の姿は好感がもてる評価です。 ●教員の資質の向上への支援は適切におこなわれていると思われる。
基準5 教育環境		
5-1 教育環境の整備点検、改善等		●チャペル・バンケットなど実際の結婚式が行える施設を持っていることが、本校において大きな強みとなっている。

5-1(続き)	2.7	●学校の校舎が第一校舎・第二校舎に分かれており、学生はその都度の移動する状況です。また校舎自体の老朽化も心配されますので長期的な計画も必要だと思います。プライダルに必要な設備・施設が完備されていますから、ドレスショーばかりでなく校内の施設で、挙式の飲食実習をさらに多く行い、準備の手順や食事のマナーも体得する試みはいかがでしょうか。 ●備品に関してもアップデートが必要。学生さんのモチベーションやリアルな現場再現に繋がると考えます。
5-2 安全対策、防災組織	2.2	●留学生を受け入れたことで、留学生向けの防災マニュアルの策定と防災教育が必要となる。 ●巨大地震の心配、さらに海拔が低い土地柄で人口は多い場所に立地しています。さらに多くが女子学生ですから防災グッズは女性用のものを充実させながら、安否確認のシステム導入も検討すべきだと思います。 ●安全対策・防災に対しては、しっかりとおこなわれていると思うが、2026年度からの留学生に向けては、新たな課題があると思う。日程に余裕があるなら消防庁の防災体験ができる施設の見学などがあってもいいかとも思う。
基準6 教育活動の基盤と情報の公表		
6-1 中期事業計画と財務基盤	3.0	●財務基盤は十分に確立されている。 ●学校単体で見れば学生募集で苦戦しているのが現状だと思います。ただ学校法人慈慶学園グループとして全体を比較すれば問題のない財務基盤が確立されています。これは他の学校が羨む凄さであると思います。そして運営は中期計画で常に5年先の18歳人口・世の中の流れ・流行や価値観の変化まで見据えた計画が法人本体と学校間で出来上がっていることは大いに評価できます。 ●中長期計画、財務基盤に関しては学園・学校できちんと定められており、財務基盤においてもきちんと確立されていると思う。
6-2 学校運営	3.0	●教務・事務がそれぞれ縦割りとはならず課題解決に向けて協力する体制が構築されている。 ●学校の教務体制・事務体制はしっかりしています。同時に役割分担も明確になっています。成績や卒業認定会議の評価も、学則・シラバス・学生便覧に每期されていますので理解が浸透しています。さらなる教職員の研修で高みを目指す教員集団に期待します。 ●教職員の方々の研修・スキルアップの場が設けられていることは、学校に対しての信頼や安心に繋がると考えます。 ●学園・学校によりきちんとした運営が行われ、教職員の研修もしっかりとおこなわれていると思う。
6-3 学校評価の実質と改善活動 6-3(続き)	3.0	●卒業生からの意見聴取を経て、それらを研修や会議等で共有する機会を設けている。 ●学校の評価については、卒業や産学連携企業団体・オープンキャンパスで寄せられた意見や要望を取り入れています。また毎年開催されている学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の意見を積極的に取り入れて、改善改革がたてられ実行されています。今後は学校関係者や企業ばかりか、鉄道会社・観光協会・海運会社・航空会社等からも幅広く意見を求めること

		で、更なる改善と募集に繋がると期待しています。 ●学校関係者評価委員会では、業界・卒業生・保護者の方々と活発な意見交換ができていますと感じます。 ●各委員会はきちんと行われており、HP でも公表されている。委員会での意見や提案が次年度の委員会の時に反映され、積極的に取り入れがされていることを感じる。
6-4 社会からの理解と情報の公表	2.7	●業界で活躍する卒業生のネットワーク化は、学校が設立して10年以上が経過して卒業生が増えてきていることもあり、ぜひお願いしたい。 ●ホームページで財務や教育実績・活動方針が公開されていますから、その情報を手にした人の理解は深まっていると思います。さらに詳しい案内・結果の記載も必要ですが、全国的にコロナ感染を境にしてプライダル関係は学校も業界も縮小傾向があります。募集が困難な学校も出現していますから、前項で提案した観光協会や鉄道・空港・海運などの新たな業種との連携を期待します。 ●情報公開はきちんと行われていると思う。また、ドレスショーやハウスウェディングなど業界や地域との関りを続けていくことで、学校への理解が図られていると思われる。

【意見等のまとめ】

本校の教育活動および学校運営については概ね適切に実施されており、とくに業界と連携した実践的な教育内容や、段階的に構築されたカリキュラムに対して高い評価が示された。3年間を通じた体系的な学びや長期実習、実習科目を中心とした教育は、学生が業界理解を深め、自らの将来像を具体的に描く上で有効であり、企業ニーズに合致した人材育成につながっている点が評価されている。

また、教育理念や養成目的が明確に示され、教職員・学生・保護者間で共有されている点や、教務・キャリアセンターが連携した支援体制、ICT(Microsoft Teams 等)を活用した学習支援の取り組みについても一定の成果が認められている。教員研修や組織的な運営体制の整備など、教育の質向上に向けた継続的な取り組みについても評価がなされた。

加えて、教育体制の見直しに関しては、入学希望者のニーズや社会情勢の変化に対応し、3年制学科の一部を2年制へと修業年限変更する取り組みについて、柔軟で時代に適応した判断として前向きに評価する意見が見られた。また、今年度より開設された留学生主体の1年制学科については、インバウンド需要の高まりやグローバル人材育成の観点から意義があると評価される一方、日本の習慣や組織適応力の育成、日本人学生との交流機会の確保などが今後の重要な課題として指摘された。

一方で、今後の課題として、学修成果の把握・検証の充実が挙げられた。就職実績に加え、学生の志望との適合性や卒業後の定着状況など、中長期的な視点での成果分析の必要性が指摘されている。また、業界の変化に対応したカリキュラムの見直しや、卒業生・企業からのフィードバックの一層の活用も求められている。

学生支援の面では、担任制度や医療機関との連携など一定の体制が整備されているものの、退学率の低減に向けた取り組みや、メンタルケア体制のさらなる充実、学生生活面での支援強化が課題として挙げられた。加えて、自主的な学習や課外活動の機会の充実、学生同士や教員との対面による関わり強化なども期待されている。

さらに、学生募集においては定員充足に向けた戦略強化の必要性が指摘されており、学校の特色や教育の強みをより効果的に発信していくことが求められている。教育環境についても実践的な施設は評価されつつ、設備の更新や防災対策の一層の充実が必要であるとの意見が示された。

以上のように、本校は実践的職業教育機関として高い評価を得ている一方で、教育成果の可視化や学生支援、教育体制のさらなる充実に向けた継続的な改善が期待されている。

【学校関係者評価の活用について】

本校では、学校関係者評価委員会からの意見を踏まえ、教育の質向上と学生支援の強化に向けた改善を継続していく。特に、学修成果については就職後の定着状況や満足度を含めた中長期的な検証を進め、教育内容の見直しに活かしていく。また、修業年限の見直しによる2年制学科の設置や、留学生主体の1年制学科の運営においては、多様化するニーズに対応した柔軟な教育体制を構築する。さらに、学生一人ひとりに寄り添った支援体制の充実と、学校の特色発信の強化に努め、社会に求められる人材育成を推進していく。

(次回日程)

2027 年 5 月中に実施

以上